

令和4年度第2回重要文化財京都府庁旧本館修理検討専門家会議 議事要旨

■開催日時

令和5年3月24日（金曜日） 午後2時から午後4時まで

■場所

京都府庁旧本館 第1会議室

■出席者

石田委員、斎藤委員、林委員

■議題

- ・不陸・傾斜調査について
- ・物性試験結果について
- ・耐震診断結果について
- ・耐震補強について

■委員からの主な意見

- ・面外の変形が大きいため、臥梁が効果的にも思う。
- ・過去の補強事例では、梁など痛めたくないことから避けた形でトラスが入っており、上弦材、下弦材がつながっておらず、補強効果が出ていない事例がある。細部の仕上げが甘く、効果が出ておらず、旧本館も工事の際にこのようなことにならないよう、お願いしたい。
- ・工法から入るものではなく、旧本館のどこが弱いかを特定し、そこに対する補強方法はなにが効果的になるかという点を詰めていくべきである。部分の弱い箇所がわかれば、部分補強ということも出てくるかもしれない。
- ・旧議場の補強は鉄筋・鉄骨を組み合わせるような補強になると思う。部位に合わせた補強を行って欲しい。
- ・ステンレスピンによる補強は煉瓦を痛める範囲が大きく採用は難しいと考える。他にも、ハウスinハウスやセメント目地への置換なども不適當だろう。
- ・何れの補強を採用したとしても、耐震補強を行うと可逆性は失われてしまうことに留意されたい。
- ・石も様々なものが使われており、価値を感じた。
- ・RC造べた基礎を採用した初期の事例だったと記憶している。その価値を大事に進めていければと思う。
- ・スパンが長い壁に応力が集中しているため、その位置にトイレを設置することで補強にもなるのではと感じた。利便性も改善しながらという観点ではできなくはないかと思う。
- ・活用の問題を含めて考える必要がある。
- ・スケジュール的な余裕を持って検討をできたらと思う。